教育 事情

インド ニューデリー

BOP層実態調査レポート

1. 概要

予備校および私学志向

インドでは、教育における競争と試験中心主義の高まり、また、高得点が優位な立場につながるとのプレッシャーから、1980年代に予備校が出現した。予備校は正規の教育機関ではなく、様々な有名カレッジや大学、特に職業/技術カレッジの入学試験、およびその他の競争の激しい入学試験に合格することを目指す学生に、放課後のプログラムを提供する施設や専門学校である。

予備校は入学試験対策が専門である為、この分野においては一般の学校よりも優れたサービスを提供する。予備校は、こうした試験のための専任講師を揃えており、彼らは、限られた科目に指導時間のすべてを費やしている。試験での得点を望ましいレベルにまで到達させるため、そうした科目における実力強化を目指したコース教材の改善や模擬試験が続けられる。予備校の質は、主に合格率で判断される。予備校の人気は、テレビコマーシャルや印刷物を通じてのマーケティング活動に加え、口コミマーケティングによる影響も受ける。

最近の保護者は、子どもを公立学校よりも私立学校やインターナショナル・スクールで学ばせることを希望する傾向にある。インターナショナル・スクールの指導方法では、教育カリキュラムの実施に加え、多数の課外活動に適応させることに重点が置かれる。こうした学校は、公立学校に比べて近代的な設備が充実しており、高品質の教育を提供し、人格形成を促す場となっている。

階層別の主な通学校と費用

■**富裕層**：通常、富裕層は、子どもたちを12学年または中等教育レベルまで、都市部のインターナショナル・スクールや一流私立学校に通わせる。この間の授業料は、年平均15万ルピーから40万ルピーである。中等教育を終えると彼らの多くは海外に留学する。卒業後（カレッジで学位取得）は専門的な経営コースや修士課程を履修し、帰国してファミリービジネスの後継者となる。留学費用は、一人当たり400万ルピー程度と見られる。

■**中間層**：中間層は、子どもが私立学校で学ぶことを希望する傾向にある。この層の子どもが通う私立学校の授業料は、学校の質や評判によって、1万5,000ルピーから7万ルピーの開きがある。授業料に加え、保護者は個別指導の費用も負担しなければならず、子どもが12歳から16歳の場合には、その額が年間5万ルピーにも膨らむこともある。

■**低所得層（BOP）**：通常、この所得層に含まれる子どもは、授業料が無料である公立、または政府系の学校に通う。しかしこうした傾向に変化が生じている。ある調査によると、地方人口の28%は私立学校へのアクセスが可能であり、6歳から10歳の子どもの15.5%が私立学校に通っている。低所得層の子どもが通う私立学校の授業料は、年間650ルピーから3,000ルピーである。

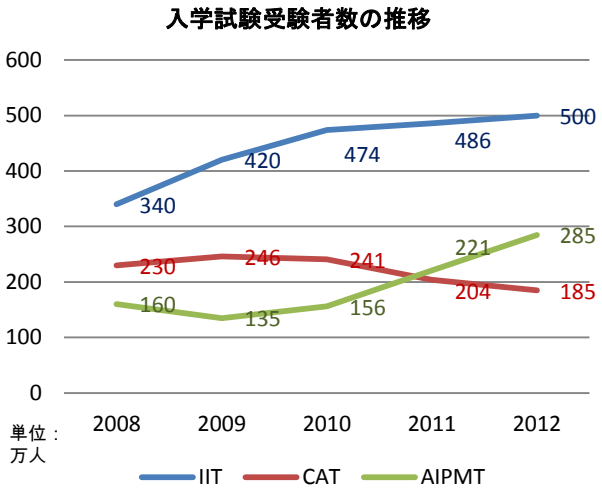
*1インド・ルピー＝約1.4円（2012年7月末時点）

Copy rights(C) 2012 JETRO. All rights reserved.

2. 予備校

インドの学生の多くは、早い段階から予備校に通い始める。通常、13歳から20歳の学生は、有名大学や各種の教育機関、そして21歳から28歳の学生は、大学院の入学試験や、その他の選抜試験に合格するために予備校を利用する。インドでは、予備校を利用する目的は大学やカレッジの入学準備にとどまらない。一部の専門予備校では、政府機関への就職のほか、公認会計士や博士号などの学習プログラムに対する奨学金を受けるための選抜試験に特化した集中的なトレーニングや学習指導が行われている。また、留学希望者を対象とするコースも提供している。

例えば、ラジャスタン州の小さな町であるコタは、予備校が集中する町として有名である。インド全国の4万人にものぼる学生が、こうした予備校で学ぶためにこの町に集まってくる。コタの予備校は、インド工科大学（IIT:Indian Institutes of Technology）※1のうちの5校への入試対策に重点を置いている。この数年間、IIT合格者の3分の1以上がコタの予備校で指導を受けていた。このような予備校の平均的な授業料は、年間約6万ルピー（約1,090ドル）であり、中には年間最大1万5,000人の学生を受け入れるところもある。
IITや工学系の入試対策を専門とする予備校と並び、MBAプログラムのための入試対策に取り組む予備校も非常に人気がある。多くの予備校が出現する要因となっているのが、インド経営大学院（IIM）が実施する共通入学試験（CAT）である。MBA専門の予備校の学生は、22歳から28歳の年齢層、予備校の授業料は約3万3,000ルピー（600ドル）で、期間は8カ月から1年である。



業界全体の収益および成長率

ASSOCHAM（インド合同商工会議所）によると、IITやその他の工学系カレッジの入学試験対策を専門とする予備校業界の収益は、約962億5,000万ルピー（約17億5,000万ドル）である。全国の約60万人の学生が予備校を利用し、学生一人当たりの平均費用は2年間で17万ルピーに上る。コタでは、予備校産業が53億ルピー（約9,655万ドル）の収益をあげている。工学系の入学試験を受ける学生の約5割が、その対策に予備校を利用している。

経営主体

■民間経営
インドの予備校の約99%は民間経営である。政府が運営する予備校は、コンピュータの研修センターにほぼ限定されている。これらのセンターは、コンピュータに関するスキルの習得・強化を目的としており、受講料には補助金が交付されている。

■経営主体（国内/外国）
インドの予備校は国内企業により経営されており、現時点では外国企業が経営する予備校は存在しない。インターナショナル・スクールはインドの教育セクターの本流に進出しているが、インターナショナル予備校は今のところ出現していない。

※1 インド国内に15校ある、国立の工学と科学技術専門高等教育機関の総称

JETRO
Copy rights(C) 2012 JETRO. All rights reserved.

高等教育入学試験の種類

入学試験名称	分野	2012年度の受験者数
全インド工学入学試験(AIEEE)*1	工学	約100万
インド工科大学(IIT-JEE)*2	工学	約50万
全インドプレメディカルテスト(AIPMT)*3	医学	約28万5,000
共通入学試験(CAT)*4	MBA	約18万5,000
全インド医科学研究所(AIIMS)	医学	約8万
法科入学共通試験(CLAT)	法学	約2万6,000
インド行政職(IAS)	行政	データなし
ホテル経営・ケータリング技術全国協議会(NCHMT)	ホテル経営	データなし
全インドデザイン入学試験(AIEED)	デザイン	データなし
海洋工学研究所(MERI)	海洋工学	データなし

*1 AIEEE/All India Engineering Entrance Examination…国立工科大学(National Institutes of Technology)やインド情報技術大学(Indian Institute of Information Technology)、その他の国立・州立の高等教育機関等が適用している工学系の試験
*2 IIT-JEE /Indian Institutes of Technology Joint Entrance Examination…インド工科大学共通入学試験
*3 AIPMT/All India Pre Medical Test…医学系コースの共通試験
*4 CAT /Common Admission Test…インド国内に6校ある経営大学院の共通の入学試験

各種公的資料およびGyan Research and Analyticsより作成

予備校の人気コース

■工学系
インドの予備校の半数以上は、工学系コースへの入学試験指導を専門にしている。IITの入学試験受験者のうち、その対策に予備校を利用する学生は5割に上る。

■医学系
医学系は、工学系に次いで人気が高い。全インドプレメディカルテスト(AIPMT)受験者のうち、その対策に予備校を利用する学生は9割にも達する。

■MBA
MBA取得コースの入学試験、すなわち共通入学試験(CAT)のための予備校は、予備校市場全体の約2割を占めている。MBAは専門的な学位であるため、受験対策として予備校を利用する程度は、IITやAMIPTの場合ほど高くない。

Copy rights(C) 2012 JETRO. All rights reserved.

参考

（参考1）予備校と受講コース例、受講料

予備校名	所在地	コース内容	年数	授業料（ルピー）	受講方法
Resonance	全国	IITの共通入学試験（JEE）	2年	16万～17.5万	通学制
		医学関係の入試	2年	10万～12万	全寮制
		IIT-JEE	4年	24.5万	通信
Akash Institute	全国	医学関係のJEE	2年	16万～18万	通学制
					全寮制
					通信
Brilliant Tutorials	全国	IIT-JEE	2年	コースにより4万～ 8万	通学制
					通信
TIME	全国	MBA（フルタイム指導）	1年	全ての経費を含めて2.8万	通学制
					通信
Success 30	ビハール州パトナ	IIT-JEE	2年	無料	全寮制
FIIT JEE	全国	IIT- JEE	2年	15万	通学制
					通信
Bansal Classes	インド北部、西部、東部	IIT- JEE	2年	1.5万 ～7.5万 +サービス税	通学制
					全寮制
					通信
Sri Sankara Coaching Classes	チェンナイ	公認会計士試験	1年	2万	通学制

（参考2）予備校講師の報酬

経験レベル	年間報酬（ルピー）
2～4年の経験	120～140万
5～10年の経験	400～450万
12年以上の経験	1,000万

予備校の多くは、大学院生、博士号取得者、業界内で数年間の経験を持つ専門家を講師として揃えている。彼らの多くは有名カレッジや教育機関の常勤講師であり、予備校では非常勤で教えている。講師は、各予備校が対策に重点を置く有名カレッジや教育機関の出身である場合が多い。

JETRO

Copy rights(C) 2012 JETRO. All rights reserved.

3．私立学校

インドでは、この10年間に私立学校が急増した。ASSOCHAM（インド合同商工会議所）によると、教育費は、過去8年間で160%増加している。教育費が急増する一方で、年収は富裕世帯でさえ30%の増加に留まっている。

通常、私立学校の年間授業料は、6万5,000ルピー（約1,180ドル）から7万ルピー（約1,270ドル）であり、毎年9%増加している。さらにこの調査では、親の収入全体の50%超が子どもの教育関連の支出であると推計している。学校の授業料に加え、13歳から15歳の子どもの場合には、個別学習の指導料が年間5万ルピー（約900ドル）にものぼる。調査では、個別指導料が、学校の授業料、教科書、文具、通学交通費、制服費用の合計をしばしば上回ることが明らかになった。最近の新たな傾向は、インターナショナル・スクールの出現である。こうした学校は、最高の設備に加え、優れた指導能力を持つ質の高い講師を揃えている。インターナショナル・スクールの年間授業料は通常、30万ルピーから40万ルピーである。

■有名私立学校

学校名	所在地	学校名	所在地
Beacon High School	ムンバイ	Loyola School	ジャムシェードプル
Cathedral and John Connon School	ムンバイ	St. Kabir School	ジャムシェードプル
Ryan international School	デリー	Salt Lake School（英語による授業）	コルカタ
Amity International School	ノイダ	St. Michael's School	パトナ
Baldwin Boys High School	バンガロール	St Ann's High School	ハイデラバード
Jamnabai Narsee School	バンガロール	Woodstock School	ムスーリー
Chettinad Vidyashram	チェンナイ	Oak Grove School	ムスーリー
The Bishop's School	プネ	Oaktree International School	コルカタ
St. Mary's Schools	プネ	Riverdale International School	ナイニタール
PS Secondary High School	チェンナイ	Roycee International School	プネ
Calcutta International	コルカタ		

■代表的な私立学校2校の授業料

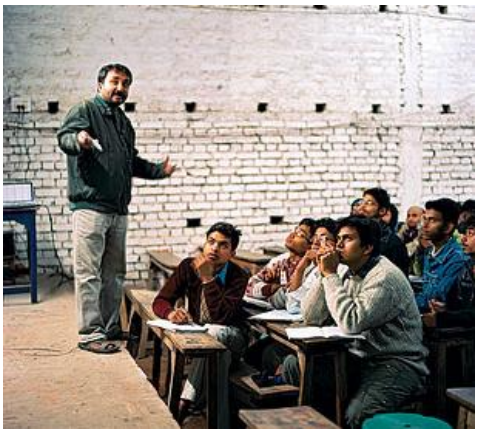
学校名	コース内容	年間平均授業料（ルピー）
Delhi Public School	初等（1～5年）	42,000
	中等（6～10年）	48,000～50,000
	後期中等（11～12年）	56,000（実験実習費を含む）
Julien Day School	初等（1～5年）	15,000
	中等（6～10年）	16,200
	後期中等（11～12年）	21,600

JETRO
Copy rights(C) 2012 JETRO. All rights reserved.

4. BOP層が学ぶ予備校・私立学校の現状

予備校

■Super 30という予備校は、ラマヌジャン数学学校のプログラムとして運営され、ビハール州のパトナで、低所得層出身の30人の恵まれない子どもたちに、IIT受験に向けた授業を無料で毎年提供している。この予備校は88%という極めて高い合格率を誇る。2004年以降、240人の学生が有名なIITの入学試験を受け、212人が合格している。



■インド政府は、地方学生を対象とした予備校の開校を計画している。地方では、支援施設が不十分なため、競争の激しい試験から学生が取り残されている。政府は、マハラシュトラ州ナグプール地区の各地で予備校作りに着手する計画である。地方出身の学生にはこれらの予備校への入学登録が認められ、また定員の30%は女子学生に割り当てられる予定である。

■慈善基金団体のRamkrishna Mathは、地方の児童を対象に授業を行うため、カルナタカ州のバンガロール郊外にあるKanakapura郡の複数の村で20カ所の学習センターを運営している。995人もの児童がこのスキームの恩恵を受けている。Ramkrishna Mathで教えている講師は有給であるが、学生には費用の負担が求められない。

私立学校

地方人口の28%は、私立学校へのアクセスが可能である。ラジャスタン、パンジャブ、ハリヤナ、ビハールなどの州では、児童が居住する村内に私立学校があり、通学が可能である。しかし、グジャラート、マハラシュトラ州などでは、私立学校が地元にほとんど開校されていない。アセスメント調査評価研究センター（ASER）の調査報告書によると、地方では、6歳から10歳の子どもの約15.5%が私立学校に通っている。
人口の多い村ほど私立学校が開校される可能性が高い。加えて、私立学校は、公立学校の教員の欠員率の高い村で開校される傾向にある。同報告書では、一人当たりの収入の多い村では私立学校が開校されにくい傾向にあることを示し、その理由として、住民に経済的余裕があり、より質の高い都市部の私立学校に子どもを入学させることが可能なためと指摘している。

地方の私立学校における教員欠員率は、公立学校と比較すると3.8%ほど低い。これらの学校の生徒教師比は約19.16%であり、公立学校の約43.2%よりもはるかに低い。地方の私立学校の教員の平均年齢は29.61歳であるが、公立学校では40.28歳である。これらの学校の教員の多くが取得しているのはカレッジの学位であり、正式な教員資格を取得していない場合がある。こうした教員の多くは、教育を受けたものの職に就くことができず、農業を生業にすることができない、またはそれを希望しない若者である。通常、地方の私立学校の教員の給与は政府系の学校の5分の1であり、平均授業料は、月額55ルピー（約1ドル）から140ルピー（約2.5ドル）程度である。

JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。

Copy rights(C) 2012 JETRO. All rights reserved.